



滝沢村自治会連合会 創立40周年記念誌発刊にあたって

会長 瀬川 幸男

滝沢村自治会連合会が創立40周年を迎えるにあたり、当連合会の40年の歴史を顧みますと、昭和45年に開催された岩手国体を契機として、村民一丸となって成功させるべく昭和43年に結成が進められた部落会がその原点であり、その連合体として自治会連合会が組織されたのが、ちょうど40年前の昭和46年でありました。以来、住民の自主的な地域づくり活動として、村民生活の中に根付いて今日に至っているものであります。

連合会創立当時、村の人口は約1万3千人、世帯数3千世帯、自治会数は13でしたが、40年後の今日においては、人口5万4千人、世帯数2万1千世帯、自治会数も27自治会を数えるに至り、純農村地帯から都市化へと大きな変貌を遂げ、行政においても今まさに村制から市制に向かって、羽ばたこうとしております。

このように変貌著しい本村にあって当連合会は、コミュニティ活動の推進母体として行政と一体となって、住みよい地域づくりに鋭意取り組んできたと自負しております。

近年においては、多様化する住民ニーズに対応しながら、従来の融和型自治会から、身近な地域課題を解決する行動型自治会へと転換し、その活動範囲は、防災防犯、環境、健康福祉、交通安全と多岐に渡り、まさに安心・安全な地域づくりのために、会員一同日夜努力しているものであります。

おりしもこの記念すべき年に、日本史上最大規模の東北地方太平洋沖地震による東日本大震災が発生し、多くの尊い命が奪われるという悲劇に見舞われました。幸い本村においては、甚大な被害は受けずに、比較的早い段階で日常生活を取り戻すことが出来ましたが、今回の災害を機に、あらためて地域コミュニティの大切さ、自治会活動の重要性が見直される機会ともなりました。それは、このような非常事態において、いち早く高齢者等の安否確認、地域内の被害確認、避難所の開設、避難者の受け入れを行ったのは、行政ではなく、まさに我々自治会であり、地域住民によるものでした。

創立40周年の節目の年に、この歴史的な大災害に立ち会った我々は、今回の震災の教訓を生かしながら、これまでの活動を振り返り、これからも人と人との絆を大切に、心新たに住みよい地域づくりのために邁進して参りたいと存じます。

最後に、当連合会発展の礎としてご活躍いただきました皆様に対し、衷心より尊敬と感謝の念を捧げますとともに、村当局をはじめとする関係各位に御礼申し上げます。